



デジタル時代に求められる信頼を 根底から支えるクラウド基盤

IBM z14 に新シングルフレーム・モデル登場

サイバー脅威から企業を守る 全方位型暗号化

データの100%暗号化で、
企業の安全性を担保し信頼を獲得

最も価値の高いデータを 活用した機械学習

基幹データを移動させることなく
機械学習を行い、即ビジネスに活用

マルチ・クラウドの中核となる セキュアなクラウド基盤

既存資産のAPI化により
外部クラウドとセキュアにスムーズに連携



IBM z14 Model ZR1
(シングルフレーム・モデル)

最新の情報はこちらの Web ページをご覧ください

ibm.biz/z_mainframe_jp

デジタル変革はあらゆる業界のビジネスや消費者の生活スタイルにも大きな影響を与えています。顧客に提供されるデジタル体験は、今やデータによって生み出され、クラウドを通じて顧客に提供されています。そこで重要となってくるのが「信頼」です。信頼できるサービスなのか、信頼して自分のデータを預けても良いのか。デジタル時代だからこそ、改めて信頼が求められています。このようなデジタル時代に、企業は重要なデータを保護し、より高いニーズに応え、顧客体験に価値を付加するサービスを創出する必要があります。

IBM z14 の新たなシングルフレーム・モデル (IBM z14 Model ZR1) は、あらゆる規模のビジネスにおいても使いやすく、デジタル時代に求められる信頼を根底から支えるセキュアなクラウド基盤です。

サイバー脅威から企業を守る全方位型暗号化

重要なデータや業務処理を徹底的に保護し、監査対応を容易にします。全方位型暗号化は、高速のハードウェア暗号化機能によって、アプリケーションの変更を必要とせず、またパフォーマンスにもほとんど影響を与えず、またディスク上や通信中の全てのデータを暗号化します。さらに、ユーザー毎にアクセス権限を細分化した厳格な情報保護が可能です。IBM セキュア・サービス・コンテナは Linux 上でのセキュアな稼働環境を実現します。マルウェアの導入を完全に防止し、特権ユーザーのコンテナへのアクセスも許さず、不正情報漏えいや誤用を防止します。

どのデータセンターにも最適な使いやすさを実現

新しいシングルフレームには業界標準 19 インチラックを採用し、省スペースを実現しています (z13s 比 40% 減)。さらに、16U の空きスペースを活用して、管理コンソール (HMC)、スイッチ、ストレージ装置などを一つのラックに内蔵できます。電源は一般商用の単相 200V を使用できます。データセンターに容易に導入し新たなサービス開始することができます。

最も価値の高いデータを活用した機械学習

メインフレーム上に既に存在する膨大な量の基幹データと他のデータを組み合わせ機械学習を IBM Z 上で実行することで、より深い意思決定のための洞察を獲得することができます。また、IBM Z 上で分析業務を導入すると、トランザクション処理と分析を同時に行い、継続的な洞察とリアルタイム分析を行うことができます。IBM Z 上のデータを移動させずにそのまま使用するため、データ分散によるセキュリティ・リスクが無く、分析に必要なデータ準備も容易となります。さらに、データ転送にかかるコストは削減でき、データ鮮度の課題もありません。

デジタルワークロードのためのソフトウェア料金の新パラダイム

Container Pricing は、新規の z/OS アプリケーションや開発・テストなど認定ソリューションに対する新しいソフトウェア料金のオプションを提供します。柔軟な導入オプションと経済性を組み合わせ、既存の z/OS ソリューションのソフトウェア料金にも影響なく新たなソリューションを開始できます。

マルチ・クラウドの中核となるセキュアなクラウド基盤

あらゆるビジネス・ニーズを満たすために、複数の IT プラットフォームを組み合わせ使用されるマルチ・クラウド・アーキテクチャーの採用が進む中、複雑にシステムが連携する環境でも優れたサービスを提供し、柔軟に拡張できるセキュアな基盤が重要となってきます。最高レベルのセキュリティ、パフォーマンス、可用性を兼ね備えた IBM z14 は、API 連携で外部クラウドとも容易に連携でき、新たなビジネスモデルの中核の基盤となります。また、DevOps ソリューションによって開発環境をオープン化し、既存のアプリケーションを安定稼働しながらアジャイルな開発を実践し、ビジネス変革に取り組むことができます。



IBM z14 Model ZR1

ユーザー指定可能な PU 総数 *1	30	
最大メモリー	8 TB	
最大 FICON/OSA ポート数 *2	128/96	
本体寸法	機械下部で結線 (通常)	幅 60 × 奥行 107 × 高さ 201.5 cm
	機械上部で結線	幅 62.4 × 奥行 120.4 × 高さ 212.8 cm
最大重量	740 kg	
入力電源	単相 200 - 240 VAC	
ソフトウェア・サポート *3 *4	z/OS V2.1 以降のリリース *5、z/VM 6.4 以降のリリース、z/VSE V5.2 以降のリリース、z/TPF V1.1、SLES 11 SP4、SLES12 SP2、RHEL 6.9、RHEL 7.3、Ubuntu 16.04 LTS 以降のリリース、KVM *6	
エネルギー消費効率 *7	186 W/GTOPS (2011 年基準区分 B)	

*1 少なくとも 1 個の CP/IFL/ICF のいずれかを指定する必要があります。

*2 ポート数は、構成によって最大数まで搭載できない場合があります。

*3 ソフトウェアのバージョン・リリース・レベルによってサポートされる機能が異なる場合があります。

*4 Linux の推奨ディストリビューション・レベルや最新情報は、www.ibm.com/systems/z/os/linux/resources/testedplatforms.html をご覧ください。

*5 z/OS V1.13 は、延長サポート契約によりサポートされます。

*6 KVM は、SLES 12 SP2 および Ubuntu 16.04 LTS で提供されるものをサポート予定です。

*7 「エネルギー消費効率」とは、エネルギーの使用の合理化に関する法律 (昭和 54 年法律 49 号。以下「省エネルギー法」という) で定める測定方法により測定した消費電力を省エネルギー法で定める複合理論性能で除したものです。

このカタログは、2018 年 4 月当時の情報を基に作成しており、予告なく変更することがあります。数値で示す効果や改善は IBM 社内の測定実績であり、実際の環境によって変化します。製品・サービスの詳細は、弊社または IBM ビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103 - 8510
東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号
© Copyright IBM Corporation 2018
All Rights Reserved, 04-18 Printed in Japan

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、IBM Z は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の名称は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。IBM の商標は、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。Java およびすべての Java 関連の商標は、Oracle やその関連会社の商標または登録商標です。Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。